

	31D330-0010S	共生のための国際哲学基礎論 I	原 和之	夏学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 開講時に指示する  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0040W	共生のための国際哲学基礎論IV	齋藤 希史	冬学期
<b>講義題目</b> 近代知識人とは誰か？ <b>概要・計画</b> 近代東アジアにおいて、伝統的に形成されてきた知識階層とはいかなるものであったかを理解し、近代に至って、どのように転換・再編・継承されたのかについて考える。さらに現代における知識人とはいかなる意味で可能かを検討する。  <b>授業方法等</b> 参加者による討論を軸に進める。  <b>評価方法</b> 平常点。 <b>教科書</b> 特になし。				

	31D330-0090S	共生のための国際哲学演習I	市野川 容孝	夏学期
<b>講義題目</b> 社会的なものの概念 <b>概要・計画</b> 文献講読や参加者による発表を通じて、「社会的もの」の概念の系譜とその現在について考える。  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b> 特になし。				

	31D330-0100W	共生のための国際哲学演習II	市野川 容孝	冬学期
<b>講義題目</b> 社会学としての歴史研究 <b>概要・計画</b> 社会学において方法としての歴史研究は、どのような意味をもつのか。どのような場合に、歴史研究は社会学となりうるのか。どのようなテーマが、社会的な歴史研究となりうるのか。社会学理論は歴史研究においてどのように機能しうるのか、等々。——これらの問題について、いくつかの文献講読や受講者の自由発表を通じて考えていく。（初回に文献リストを配布する。）  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0110S	共生のための国際哲学演習III	三浦 篤	夏学期
<b>講義題目</b>	サロン戯画を読む			
<b>概要・計画</b>	19世紀フランスのサロン(官展)出品作に関するサロン戯画を、キャプションも含めて読解することを目指す。イメージとエクリチュールの関係という意味でもサロン戯画は格好の題材を提供してくれる。サロン戯画の「文法」や「様式」を意識しながら、具体的にはマネとその作品のカリカチュアを綿密に調査し、解析していく。カリカチュリストが画家と作品を素材にしながら、何をどのように変形し、イメージ化しているのか、詳細に検討していきたい。主としてマネのサロン出品作を題材としたカリカチュアを年代順に研究していく。可能なら、合間にマネに関する典型的な批評も読んでみたい。			
<b>授業方法等</b>	毎回、分担を決めてレジメを作成し、発表し、全員で検討していく。可能な限り画像とキャプションを調査し、原作と比較検討したい。			
<b>評価方法</b>	出席点、レポート			
<b>教科書</b>	特になし			

	31D330-0120W	共生のための国際哲学演習IV	三浦 篤	冬学期
<b>講義題目</b>	マネ作《フォーリー・ベルジュール劇場のバー》の研究			
<b>概要・計画</b>	マネ晩年の傑作をあらゆる視点、角度から徹底的に調査、検討する。マネ芸術の集大成であり、歡樂の世界の表象、人物と静物、過去の絵画伝統との関係、鏡や視線、社会階級性等々、さまざまな問題を孕む作品を丁寧に読み解いていきたい。具体例を扱いながら、近代の絵画作品の研究方法を実践的に身につけるためのゼミでもある。《フォーリー・ベルジュール劇場のバー》に関する基本的な作品データ、証言(友人、サロン批評)、先行研究(論文、研究書)等々を、参加者が分担して発表し、議論を重ね、認識を深めていく。			
<b>授業方法等</b>	参加者による発表。			
<b>評価方法</b>	出席点、レポート			
<b>教科書</b>	なし			

	31D330-0130S	共生のための国際哲学演習V	信原 幸弘	夏学期
<b>講義題目</b>	通時的合理性			
<b>概要・計画</b>	我々と同じ報酬なら、すぐ手に入るほうを将来、手に入るほうよりも高く評価する。報酬が手に入るのが先になればなるほど、その価値を割り引いて評価する。このような価値の時間割引はどんなふうになるのだろうか。そのような時間割引によって、今はあることをしようと思っても、そのときが来ると、別のことをしてしまうということが起こりうる。このような通時的合理性の崩壊を食い止める手立てはあるのだろうか。価値の時間割引と通時的合理性にまつわる諸問題を考察する。G. Ainslie, Breakdown of will を毎回、20ページほどずつ読みながら、価値評価の時間的推移と通時的合理性の問題を考察する。			
<b>授業方法等</b>	毎回、1人の担当者を決めて、テキストのレジメを作成してもらい、それに基づいてテキストの理解を確認しながら、主要な論点について全員で議論を行う。			
<b>評価方法</b>	レジメの担当および授業時の議論への積極的参加によって評価する。			
<b>教科書</b>	George Ainslie, Breakdown of will, Cambridge University Press (誘惑される意志:人はなぜ自滅的行動をするのか/ジョージ・エイズリー著;山形浩生訳)			

	31D330-0140W	共生のための国際哲学演習VI	信原 幸弘	冬学期
<b>講義題目</b>	自発性と自己制御			
<b>概要・計画</b>	自発的に行為することは、必ずしも自己制御的に行為することではない。たとえば、自分で制御できない衝動に基づいて行為するという暴走的自発性がある。しかし、自己制御的に行為しているときには、必ず自発的に行為していると思われる。自己制御はまさに自発的な制御である。自己制御とはどのような制御なのだろうか。自分の諸々の欲求や感情などを制御する自己なるものが存在し、それが制御を行うのだろうか。そうではなく、そのような欲求や感情などが相互作用するなかで自ずと達成される合理的調整が自己制御なのだろうか。しかし、そうだとすれば、そこにはどのような自発性があるのだろうか。自己制御に含まれる自発性に注目しながら、自己制御とは何かを考察する。自発性と自己制御に関する英語の文献を読む。			
<b>授業方法等</b>	自発性と自己制御に関する英語の論文を読みながら、主要な論点について議論を行う。			
<b>評価方法</b>	授業時の議論への積極的参加および貢献によって評価する。			
<b>教科書</b>	とくになし。			

	31D330-0150S	共生のための国際哲学演習VII	原 和之	夏学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 開講時に指示する  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0160W	共生のための国際哲学演習VIII	原 和之	冬学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 開講時に指示する  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0170S	共生のための国際哲学演習IX	中島 隆博	夏学期
<b>講義題目</b> 批評理論の現在 <b>概要・計画</b> 東アジアから新たな批評理論を発信する可能性を模索する。東アジアから新しい批評理論を発信するために、諸ジャンル（哲学・文学・美学その他）にまたがって批評理論について討議する。とりわけ、近代日本の「啓蒙」に焦点を当てる。  <b>授業方法等</b> 毎回一つのテキストを取り上げ、全員で分析を行い、各自が書いたレポートを読み合う。責任担当者がイニシアティブを取って議論を深める形式にする。  <b>評価方法</b> 毎回提出するレポート（50%）とパフォーマンス（30%）そして期末レポート（20%）で評価する。 <b>教科書</b>				

	31D330-0180W	共生のための国際哲学演習X	中島 隆博	冬学期
<b>講義題目</b> 批評理論の現在 <b>概要・計画</b> 東アジアから新たな批評理論を発信する可能性を模索する。東アジアから新しい批評理論を発信するために、諸ジャンル（哲学・文学・美学その他）にまたがって批評理論について討議する。とりわけ、戦後日本の批評に焦点を当てる。  <b>授業方法等</b> 毎回一つのテキストを取り上げ、全員で分析を行い、各自が書いたレポートを読み合う。責任担当者がイニシアティブを取って議論を深める形式にする。  <b>評価方法</b> 毎回提出するレポート（50%）とパフォーマンス（30%）そして期末レポート（20%）で評価する。 <b>教科書</b>				

	31D330-0190S	共生のための国際哲学演習XI	齋藤 希史	夏学期
<b>講義題目</b>	東アジアの文体と思考			
<b>概要・計画</b>	東アジアにおける文体と思考の空間は、中国古典文というシステム、あるいは漢文脈によって、一つのゆるやかな圏域を為していた。近代以降、西洋文化の急激な摂取とともに、その圏域はそれぞれの近代文化システムへと再編されていく。この授業では、その前後において東アジアのエクリチュールに大きな変容があったことを前提としつつ、かつその連続性にも着目して、東アジアにおける文体と思考について検討することを目標とする。			
<b>授業方法等</b>	参加者による発表を軸に進める。			
<b>評価方法</b>	平常点			
<b>教科書</b>	特になし			

	31D330-0200W	共生のための国際哲学演習XII	齋藤 希史	冬学期
<b>講義題目</b>	東アジアの文体と思考			
<b>概要・計画</b>	東アジアにおける文体と思考の空間は、中国古典文というシステム、あるいは漢文脈によって、一つのゆるやかな圏域を為していた。近代以降、西洋文化の急激な摂取とともに、その圏域はそれぞれの近代文化システムへと再編されていく。この授業では、その前後において東アジアのエクリチュールに大きな変容があったことを前提としつつ、かつその連続性にも着目して、東アジアにおける文体と思考について検討することを目標とする。			
<b>授業方法等</b>	参加者による発表を軸に進める。			
<b>評価方法</b>	平常点			
<b>教科書</b>	特になし			

	31D330-0210S	共生のための国際哲学演習XIII	村田 純一	夏学期
<b>講義題目</b>	原因と説明			
<b>概要・計画</b>	原因と説明は、科学のみならず日常的な生活でも基本的概念となっている。なぜ飛行機は墜落したのか？なぜ彼女は来なかったのか？などなど、出来事の説明をも求めることは多くの場合その原因を知ろうとすることのように思われる。実際、科学的説明をめぐる議論でも、因果的説明の役割をどのように考えるかは、もっとも大きな問題となってきた。この時間には、因果的説明に関する「操作的見方」の代表的論者の著作を読んで、原因や説明とはどのようなことなのかという科学哲学の根本問題について考える。以下のテキストを取り上げて読みながら議論を進める。  James Woodward&comma; Things Happen: A Theory of Causal Explanation&comma; Oxford UP.&comma;2003.			
<b>授業方法等</b>	毎回担当者を決めて発表してもらう予定。			
<b>評価方法</b>	発表とレポート。			
<b>教科書</b>	James Woodward&comma; Things Happen: A Theory of Causal Explanation&comma; Oxford UP.&comma;2003.			

	31D330-0220W	共生のための国際哲学演習XIV	村田 純一	冬学期
<b>講義題目</b>	知覚の哲学・心の哲学：色彩現象を中心にして			
<b>概要・計画</b>	知覚の哲学ならびに心の哲学の根本問題を色彩現象を中心に取り上げながら議論をしていく。ただし、参加者の博士論文を書き進めることを支援することが最重要課題なので、それに寄与する方法を考えながら進める予定。以下のテキストを読みながら議論を進める。 ただし、参加者の関心に応じて、テキストは追加したり変更したりする予定。  Jonathan Cohen&comma; The Red and The Real&comma; Oxford UP.&comma; 2009.			
<b>授業方法等</b>	毎回担当者を決めて発表してもらい、それをもとに議論を進める。			
<b>評価方法</b>	発表とレポート			
<b>教科書</b>	Jonathan Cohen&comma; The Red and The Real&comma; Oxford UP.&comma; 2009.			

	31D330-0230S	共生のための国際哲学演習XV	小林 康夫	夏学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 開講時に指示する  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0240W	共生のための国際哲学演習XVI	小林 康夫	冬学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 開講時に指示する  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> <b>教科書</b>				

	31D330-0250S	共生のための国際哲学特別研究I	石原 孝二	夏学期
<b>講義題目</b> 科学・技術と社会1 (精神医学・発達障害研究、脳科学技術と社会) <b>概要・計画</b> 科学・技術と社会の多様な関係を、具体的なテーマを取り上げながら、哲学・倫理学・歴史の観点から総合的に捉えることを目指す。夏学期は精神医学・発達障害研究、脳科学技術と社会との関係をテーマとして取り上げる。具体的な問題としては、・精神疾患・発達障害の診断の哲学的分析と社会的意義・エンハンスメントの肯定的評価の可能性・ニューロモデュレーションなどについて議論していきたい。そのほか、参加者の関心に応じて柔軟に対応したい。(精神医学・発達障害研究以外のテーマも参加者の希望があれば取り上げたい。)  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> 平常点による。 <b>教科書</b> プリントを配布する。				

	31D330-0260W	共生のための国際哲学特別研究II	石原 孝二	冬学期
<b>講義題目</b> 科学・技術と社会2 (ロボティクスと社会) <b>概要・計画</b> 科学・技術と社会の多様な関係を、具体的なテーマを取り上げながら、哲学・倫理学・歴史の観点から総合的に捉えることを目指す。冬学期のテーマとしては、ロボティクスと社会との関係を取り上げることが予定している。ロボット、とりわけヒューマノイドロボットが日常生活の中に入り込んでいくことによつてさまざまな倫理的問題が生じる可能性がある。ヒューマノイドロボットは、人間関係に無視できない影響を与えるのではないか、ロボットの製造物責任は他の人工物と同じように考えてよいのか、果たしてヒューマノイドロボットは期待されている機能を果たすことができるのか、等々。ロボエシックスに関する文献を読みながら、こうした問題を考えていきたい。  <b>授業方法等</b>  <b>評価方法</b> 平常点による。 <b>教科書</b> プリントを配布する。				

	31D330-0270S	共生のための国際哲学特別研究III	村松 真理子	夏学期
<b>講義題目</b>	イタリア文学思想テキスト分析			
<b>概要・計画</b>	イタリア語で書かれた文学思想テキストを精読し、分析する。時代背景、テキスト間のつながりについても、考察する。詳細は開講後に。初回にテキストを配布し、分担等の相談をします。2回目以降は、参加者が分担分を準備します。20世紀の思想文化についてのテキストを読み、授業期間の後半はあわせて20世紀の文学思想テキストについて参加者の発表を行います。			
<b>授業方法等</b>	演習形式 イタリア語の履修歴は問わないが、イタリア語文法知識があり、テキスト読解に参加できるレベルであることが必要。			
<b>評価方法</b>	平常点			
<b>教科書</b>	プリントは開講後に配布。L'Italia del Novecento. Le fotografie e la storia (Einaudi) などから、読み進める。			

	31D330-0280W	共生のための国際哲学特別研究IV	村松 真理子	冬学期
<b>講義題目</b>	イタリア文学思想テキスト分析			
<b>概要・計画</b>	イタリア語で書かれた文学思想テキストを精読し、分析する。時代背景、テキスト間のつながりについても、考察する。詳細は開講後に。初回にテキストを配布し、分担等の相談をします。2回目以降は、参加者が分担分を準備します。20世紀の思想文化についてのテキストを読み、授業期間の後半はあわせて20世紀の文学思想テキストについて参加者の発表を行います。			
<b>授業方法等</b>	演習形式 イタリア語の履修歴は問わないが、イタリア語文法知識があり、テキスト読解に参加できるレベルであることが必要。			
<b>評価方法</b>	平常点			
<b>教科書</b>	プリントは開講後に配布。L'Italia del Novecento. Le fotografie e la storia (Einaudi) などから、読み進める。			

	31D330-0290S	共生のための国際哲学特別研究V	橋本 毅彦	夏学期
<b>講義題目</b>	科学の社会史			
<b>概要・計画</b>	科学の社会史に関する二次文献を読む。主として現代の科学技術史の社会的側面を扱う論文を読んでいく予定であるが、受講者の希望に応じて取り上げるテーマやトピックを選んでいく。			
<b>授業方法等</b>	雑誌論文や著作の一部を読んでいく予定である。			
<b>評価方法</b>				
<b>教科書</b>				

	31D330-0310S	共生のための国際哲学特別研究VII	小林・石原・原・三浦・齋藤	夏学期
<b>講義題目</b>				
<b>概要・計画</b>	4つのUTCP中期教育プログラム、「イメージ研究の再構築」「科学技術と社会」「精神分析と欲望のエスティクス」「近代東アジアのエクリチュールと思考」共通で行われる研究報告セミナーです。各プログラムに属する受講者によって、進行中のプログラムに関しては中間報告を、今期で修了するプログラムに関しては結果報告を行います。			
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b>	報告会の結果、および各中期教育プログラムの活動にたいする貢献を評価する			
<b>教科書</b>				

	31D330-0320W	共生のための国際哲学特別研究VIII	小林・石原・原・三浦・齋藤	冬学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 4つのUTCP中期教育プログラム、「イメージ研究の再構築」「科学技術と社会」「精神分析と欲望のエステティクス」「近代東アジアのエクリチュールと思考」共通で行われる研究報告セミナーです。各プログラムに属する受講者によって、進行中のプログラムに関しては中間報告を、今期で修了するプログラムに関しては結果報告を行います。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 報告会の結果、および各中期教育プログラムの活動にたいする貢献を評価する <b>教科書</b>				

	31D330-0330S	共生のための国際哲学実験実習I	小林 康夫 他	夏学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 受講者はUTCP特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。 <b>教科書</b>				

	31D330-0340W	共生のための国際哲学実験実習II	小林 康夫 他	冬学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 受講者はUTCP特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。 <b>教科書</b>				

	31D330-0350S	共生のための国際哲学実験実習III	小林 康夫 他	夏学期
<b>講義題目</b> <b>概要・計画</b> 受講者はUTCP特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。 <b>教科書</b>				

	31D330-0360W	共生のための国際哲学実験実習IV	小林 康夫 他	冬学期
<b>講義題目</b>				
<b>概要・計画</b> 受講者は UTCP 特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。				
<b>教科書</b>				

	31D330-0370S	共生のための国際哲学実験実習V	小林 康夫 他	夏学期
<b>講義題目</b>				
<b>概要・計画</b> 受講者は UTCP 特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。				
<b>教科書</b>				

	31D330-0380W	共生のための国際哲学実験実習VI	小林 康夫 他	冬学期
<b>講義題目</b>				
<b>概要・計画</b> 受講者は UTCP 特設科目担当教員の指導に従って、独自の短期教育プログラムを企画し、各教員の指導のもとで遂行する。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 受講者各自のプログラムの進行具合による。				
<b>教科書</b>				

	31D330-0390S	共生のためのリテラシー実験実習I	内野 儀	夏学期
<b>講義題目</b> 英語によるアカデミック・プレゼンテーション				
<b>概要・計画</b> 英語によるプレゼンテーションの技術を向上させることを目的とする。受講者には各自のテーマにかんじて、英語でプレゼンテーションを行うことが求められる。その過程で、英語のディスカッションに慣れ、また、ライティングの技術を向上させる。				
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b> 評価は平常点による。				
<b>教科書</b>				



	31D330-0400W	共生のためのリテラシー実験実習II	内野 儀	冬学期
<b>講義題目</b>	英語によるアカデミック・プレゼンテーション			
<b>概要・計画</b>	英語によるプレゼンテーションの技術を向上させることを目的とする。受講者には各自のテーマにかんして、英語でプレゼンテーションを行うことが求められる。その過程で、英語のディスカッションに慣れ、また、ライティングの技術を向上させる。			
<b>授業方法等</b>				
<b>評価方法</b>	評価は平常点による。			
<b>教科書</b>				